The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪方言の述語否定形式と否定疑問文 ： 「～コトナイ」を中心に
Author(s)	高木, 千恵
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2005, 7, p. 73-87
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/23207
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『阪大社会言語学研究ノート』第7号（2005年3月）73-87

大阪方言の述語否定形式と否定疑問文
—「～コトナイ」を中心に—

高木　千恵

【キーワード】否定形式、否定疑問文、～コトナイ、認識的モダリティ

【要旨】

本稿では、大阪方言における述語の否定形式とそれを用いた否定疑問文を取り上げ、～コトナイという分析的な否定形式を中心に記述した。～コトナイは形容詞否定形式の一つだが、疑問形式と融合した～コトナイカは認識的モダリティとして固有の用法を持つ文末形式である。～コトナイカは、話し手にとって真偽が不明なことがらについての話し手の見込みを聞き手に伝え、話し手の判断の妥当性を聞き手に問うモダリティ形式であり、基本的に、話し手の認識を表す否定疑問文と置き換えることができる。否定疑問文はさまざまな用法を担っているが、～コトナイカはその中の一つの用法に特化したモダリティ形式であるということができる。また、「思う」の否定疑問形式にも～コトナイカに類似した用法がある。

1.　はじめに

大阪方言における述語の否定形式には、否定辞によるもの、語彙的形式によるもの、分析的な形式によるものなどさまざまなバリエーションがある。鏑木（1995）では次のようなものが挙げられている。

(1)　あれは花トチャウ（花ではない）。　［語彙的形式］

(2)　あまり｛ニギヤカチャウ／ニギヤカヤナイ｝（にぎやかではない）。　［語彙的形式／否定辞］

(3)　今日はあまり｛アツナイ／アツイコトナイ｝（暑くない）。　［否定辞／分析的形式］

(4)　今日はどこへも｛イケヘン／イカン｝（行かない）。　［否定辞／否定辞］

（鏑木 1995:172-174　原文は全文カナによる方言文、アクセント表記あり）

(1)(2)にみられる～チャウや(4)の～ン・～ヘンはよく知られているが、(3)にみられる～コトナイという分析的な形式についてはまだ明らかでないことが多い。山本（1982）や郡（1997）などの先行研究では～コトナイは形容詞の否定形式とされているが、疑問文においては名詞述語や動詞に後接することができ、命題についての話し手の認識を表すモーダルな表現として使われる。

(5)　この人、お父さんの言っていた漫才師ナコトナイ（漫才師じゃない）？

(6)　お父さん、この前もそんなん言っていたコトナイ（言っていなかった）？

同じようにモーダルな表現として固有の用法を持つ否定疑問形式としては、～ンチャウカ、～ヤナイカなどが知られている。

(7)　明日は雨になるンチャウ（なるのではないか）？

(8)　ほら、やっぱり雨が降っているヤナイカ（降っているではないか）。

本稿では、疑問文において固定化された表現として用いられる否定形式に注目し、特に、分析的な否定形式～コトナイとその否定疑問形式～コトナイカに焦点を当ててその用法を記述する。

以下、大阪方言の述語否定形式について§2で整理し、それぞれの否定形式を用いた疑問文について§3で概観した後、§4で～コトナイカの用法を記述する。さいごに§5でまとめと今後の課題を述べる。

なお、分析は筆者の内省に基づいている。筆者は1974年神戸市生まれ、2002年からの1年間の留学（オーストラリア）を除いて3歳から現在まで大阪府豊能町に居住している。また、以下に挙げる例文は漢字かな混じりの標準語とし、議論となる部分のみカタカナで方言形式を示す。

2.　否定形式のバリエーション

大阪方言の述語の否定形式は，否定辞によるもの，語彙的形式によるもの，分析的な形式によるものなどさまざまである。品詞ごとに整理すると〔表1〕のようになる。

〔表 1　品詞ごとにみた大阪方言の否定形式〕

品詞	否定辞	語彙的形式	分析的形式
名詞述語	～ヤナイ	～チャウ	—
ナ形容詞	～ヤナイ	～チャウ	～コトナイ
イ形容詞	～ナイ	—	～コトナイ
動詞	～ン・～ヘン	—	—

—：該当形式なし

名詞述語の否定形式には、否定辞を用いる～ヤナイと語彙的形式による～チャウがあり、ナ形容詞否定形式には、～ヤナイ・～チャウのほかに～コトナイという分析的な形式がある。イ形容詞には、ナ形容詞と同じ～コトナイという形式と、否定辞～ナイを用いる否定形式とがある。動詞には否定辞による否定形式しかないが、その否定辞に～ン・～ヘンの二種類ある。すなわち、どの品詞においても二つ以上のバリエーションが存在しているのである。以下では、否定辞（§2.1）・語彙的形式（§2.2）・分析的形式（§2.3）に分けてそれぞれの否定形式を概観する。

2.1.　否定辞による否定形式

〔表 1〕に挙げたように、否定辞による否定形式には～ヤナイ、～ナイ、～ン、～ヘンがある。～ヤナイは名詞述語・ナ形容詞語幹など体言相当のものに、～ナイはイ形容詞に、～ン・～ヘンは動詞に用いられる形式である。

(9)　あれは梅ヤナイ。桃だ。　[名詞述語]

(10)　病状はそんなに深刻ヤナイ。　[ナ形容詞]

(11)　ここの校則はあまり厳しくナイ。　[イ形容詞]

(12)　別に外国に行きたいとは｛思わン／思わヘン｝。　[動詞]

イ形容詞否定形の場合、「厳しくナイ＞キビシューナイ＞キビシナイ」のように音便形をとることが多い。また動詞否定形を作る～ヘンには、～ヒンという音声的変異があり、一段動詞や変格動詞に用いられる。

体言相当につく～ヤナイは、～デワナイ＞～ジャナイ＞～ヤナイのようにして生まれた形式と考えられるが、山本（1982:216, 219）ではとりたて詞ワのつかない～デナイという言い方も挙げられている。筆者の内省では、名詞述語否定形式としての～デナイは条件節などに用いることが多く、主節末での使用は不自然に感じられる。

(13)　これはいつも使っている｛??枕デナイ／枕ヤナイ｝。　[主節末]

(14)　いつも使っている｛枕デナイ／枕ヤナイ｝と眠れない。　[条件節]

理由は定かではないが、ナ形容詞否定形式としての～デナイであれば主節末での使用に対する許容度が上がるように感じられる。

(15)　この通りも、昔ほど｛にぎやかデナイ／にぎやかヤナイ｝なあ。[主節末]

～デナイと～ヤナイの用法上の異同について本稿では詳しく検討することができないが、構文的位置や品詞の違いによって両者の用いられ方が異なっている可能性はある。

大阪方言の述語の活用は「基本形」「タ形」「テ形」の 3 種類が基本であり、それぞれの否定辞は〔表 2〕のような活用のしかたをする。

〔表 2　否定辞の活用〕

	基本形	タ形	テ形
名詞述語 ナ形容詞	～ヤナイ	～ヤナカッタ	～ヤノーテ ～ヤナシニ
イ形容詞	～ナイ	～ナカッタ	??～ノーテ
動詞	～ン	～ナンダ ～ンカッタ	～ンデ （～ンクテ）
	～ヘン	～ヘナンダ ～ヘンカッタ	～ヘンデ （～ヘンクテ）

イ語尾を持つ～ヤナイ・～ナイは形容詞型の活用を基本とするが、テ形に若干注意が必要である。まず、～ヤナイにはテ形相当の形式として～ヤナシニという特殊な形がある。

用いられ方は～ヤノーテとほぼ同じだが、「～でなくて（も）よい」といった慣用表現では～ヤナシニを用いることができない。

(16) 昨日来たのは｛太郎ヤノーテ／太郎ヤナシニ｝次郎だった。

(17) 宿泊先は、まだ｛確定ヤノーテ／＊確定ヤナシニ｝いいよ。

また、イ形容詞否定形式である～ナイのテ形としては～ノーテが考えられるが、実際にはあまり用いられないように思われる。

(18) ??入試で、問題が思ったほどムズカシノーテ（難しくなくて）かえって不安になる場合もある。

(19) ??このキムチならそんなにカラノーテ（辛くなくて）子供にも食べやすい。

イ形容詞否定形式の場合、(18) のように二つのことがらに時間的継起性がある場合にはタ形を利用した「～ナカッテ」という形を用いる方が自然である（高木 2000）。また (19) のようにことがらの間に時間的継起性がない場合には基本形を用いることが多いように思われる。次の 2 例を参照されたい。

(20) 入試で、問題が思ったほどムズカシナカッテ（難しくなくて）かえって不安になる場合もある。

(21) このキムチならそんなにカラナイシ（辛くないし）子供にも食べやすい。

あるいは、後述する～コトナイ型否定形式のテ形「～コトノーテ」によって表されることも考えられる。

(22) 入試で、問題が思ったほどムズカシイコトノーテかえって不安になる場合もある。

(23) このキムチならそんなにカライコトノーテ子供にも食べやすい。

いずれにせよ、イ形容詞否定形では～ノーテという形式は用いられにくいように思われる。

動詞否定形を作る否定辞～ン・～ヘンは特殊な活用型を持っており、タ形は～ナンダ・～ヘナンダという形であったが、近年は～ンカッタ・～ヘンカッタという形容詞型の活用形が一般的になっている。高木（2004）は若い世代ではテ形にも～ンクテ・～ヘンクテという形容詞的な活用形が使われつつあることを指摘したほか、～ンと～ヘンは構文的位置によって使われる頻度に違いがあり、「要る」「知る」といった一部の動詞を除くと主節末では～ヘンが多く用いられることを明らかにしている。

2.2. 語彙的形式による否定形式

語彙的形式による否定形式には、動詞「違う」から派生した～チャウという形式がある。～チャウは～トチャウ・～トチガウなどの形でも用いられるが、～ヤナイと同じく体言相当のものにつき、イ形容詞や動詞につくことはできない。

(24) 私の傘はこんな色チャウ（色ではない）。 ［名詞述語］

(25) 私の傘はこんなに派手チャウ（派手ではない）。 ［ナ形容詞］

(26)　＊私の傘はこんなに大きいチャウ（大きくない）。　［イ形容詞］

(27)　＊私の傘はそんなに簡単に壊れるチャウ（壊れない）。　［動詞］

～チャウの活用は、動詞的なものと形容詞的なものとが混在した複雑な活用である（表 3）。タ形には動詞型の～チガッタとその音便形～チゴータ・～チゴタ、さらに形容詞型の～チャウカッタがあるが、多く用いられるのは形容詞型の～チャウカッタである。一方、テ形には動詞型の～チガッテ・～チゴーテ・～チゴテしかなく、形容詞型～チャウクテはあまり一般的ではない。

〔表 3　～チャウの活用〕

	基本形	タ形	テ形
動詞型	～チャウ	～チガッタ ～チゴータ ～チゴタ	～チガッテ ～チゴーテ ～チゴテ
形容詞型	～チャウ	～チャウカッタ	??～チャウクテ

なお、語彙的な形式である～チャウと否定辞～ヤナイとの間に意味的な差異は認められず、互いに交替可能な関係にある。

(28)　この絵は｛本物ヤナイ／本物チャウ｝。

(29)　父は体があまり｛丈夫ヤナイ／丈夫チャウ｝。

2.3.　分析的形式による否定形式

分析的な形式である～コトナイは、「～ことがある・ない」という〈コトガラの有無〉を表す形式と類似しているが、〈否定〉という文法的意味を表す固定化された形式である。

(30)　a. 最近あまり元気ナコトナイ（元気ではない）。

　　b. ＃最近あまり元気ナコトガナイ。

(31)　a. 全然おもしろいコトナイ（おもしろくない）。

　　b. ＃全然おもしろいコトガナイ。

上の例のように、コトガナイという形式は〈デキゴトの有無〉を述べるものであって〈否定〉を表すことはできない。否定形式として～コトナイは不可分な形式なのである。

～コトナイは、山本（1982:215-217）ではイ形容詞専用の否定形式とされているが、郡（1997:33）ではナ形容詞の否定形式としても挙げられている。筆者の内省でも～コトナイをナ形容詞否定形式として用いることは自然である。

(32)　うちは別に貧乏ナコトナイ（貧乏ではない）。　［ナ形容詞］

(33)　今日はそんなに寒いコトナイ（寒くない）。　［イ形容詞］

しかし、名詞述語や動詞に～コトナイを用いることはできない。

(34)　＊これは父の車ナコトナイ（父の車ではない）。　［名詞述語］

(35)　＊うちの子はピーマンを食べるコトナイ（食べない）。　［動詞］

山本（1982:215）は～コトナイを～ナイに比べて婉曲的な言い方としているが、否定表現として～ナイよりも柔らかい表現というわけではなく、「予想に反して～ではない」「ちっとも～ではない」のようにことがらに対して強い否定を表す場合に～コトナイが用いられることも多い。ただし、～コトナイが常に強意を含意するというわけではないし、～ナイとの意味的な相違は認められない。

(36)　友達は絶賛していたが、このワインはちっとも｛おいしいコトナイ／おいしくナイ｝。

(37)　友達も言っていたが、このワインはそんなに｛おいしいコトナイ／おいしくナイ｝。

なお、～コトナイのナイをアラヘンに変えた～コトアラヘンという表現もあるが、～コトアルという肯定形は通常用いられない。～コトアルが用いられるのは～コトアルカという形での反語的な表現に限られる。

(38)　A：鯉ってうまいのかな？

B：あんなものうまいコトアルカ！　生臭いだけだ。

～コトナイの活用体系は形容詞の活用に準じ、～コトナイ（基本形）・～コトナカッタ（タ形）・～コトノーテ（テ形）となる。ただし、ナ形容詞につく場合にはテ形はあまり用いられず、基本形を代用したり～ヤナイのテ形を用いたりすることが一般的であるように思われる。

(39)　a. チーズはべつに嫌いナコトナイ。　［基本形］

b. チーズはべつに嫌いナコトナカッタ。　［タ形］

c. ？チーズは嫌いナコトノーテ　ヨーグルトは嫌いというのは珍しい。［テ形］

cf. チーズは｛嫌いナコトナイのに／嫌いヤノーテ｝…

イ形容詞につく場合には～コトノーテという形式は不自然ではないが、やはり基本形で代用されることの方が多いと思われる。大阪方言におけるテ形というのは、形態としては存在しても実際の使用頻度というのはさして高くないのかもしれない。

(40)　a. バーゲンといっても安いコトナイ。　［基本形］

b. バーゲンといっても安いコトナカッタ。　［タ形］

c. バーゲンといっても安いコトノーテ買う人は少なかった。［テ形］

cf. バーゲンといっても安いコトナイし買う人は少なかった。

また、～コトナイの構文上の位置に制約はなく、主節末でも従属節内でも用いられうる。

(41)　この川はそんなにきれいナコトナイ。　［主節末］

(42)　この川はそんなにきれいナコトナイけど、川遊びぐらいはできる。［従属節内］

～コトナイも他の否定形式との間に意味的な差異はなく、ナ形容詞の場合には～ヤナイ・

～チャウと、イ形容詞の場合には～ナイと交替可能な形式である。

(43)　それは別に｛大事ナコトナイ／大事ヤナイ／大事チャウ｝。

(44)　今からでも全然｛遅いコトナイ／遅くナイ｝。

3.　否定形式による疑問文

では次に、それぞれの否定形式を用いた疑問文についてみていこう。以下、命題否定疑問文について§3.1 で、話し手の感情を表す否定疑問文について§3.2 で、話し手の認識を表す否定疑問文について§3.3 で取り上げる。最後に§3.4 で、文末形式として固定化された否定疑問形式について説明する。

3.1.　命題否定疑問文

まず、否定形式を使った真偽疑問文（命題否定疑問文）についてみていく。§2 でみた否定形式はいずれも、疑問の終助詞カ（またはノ）や上昇イントネーションを伴って疑問文を作ることができる。

(45)　あれは先生の｛車ヤナイカ／車チャウカ｝？

(46)　あいつはみんなが言うほど｛貧乏ヤナイカ／貧乏チャウカ／貧乏ナコトナイカ｝？

(47)　今日は昨日より｛寒くナイカ／寒いコトナイカ｝？

(48)　あの子はピーマンを全然｛食ベンカ／食ベヘンカ｝？

例文では疑問のマーカーとしてカをつけたものを挙げているが、終助詞ノや上昇イントネーションのみ（終助詞なし）によって問いかけが示されることも多い。

(49)　そんなに薄着で寒くナイノ？

(50)　本当に寒くナイ？

ここに挙げた例は否定命題の真偽を問う命題否定疑問文だが、～チャウカ・～コトナイカを用いると肯定命題に対する話し手の見込みを表す表現ととられやすい。例えば（45）の場合、～チャウカを用いると「あれは先生の車ではない」ということの真偽ではなく「あれは先生の車である」という話し手の判断の妥当性を尋ねる表現と受け取られることが多い。また（47）でも、～ナイカより～コトナイカを用いた方が話し手の判断の妥当性を問う疑問文と理解されやすく、否定命題の真偽ではなく「今日は昨日より寒い」という話し手の判断を問題にしているように感じられる。これは、後述するように～チャウカや～コトナイカが独立した文末形式として固有の用法を持っているためと思われる（→§3.4）。

否定疑問文には、否定命題の真偽を問うもののほかに、希望や不安といった話し手の感情や事態成立の見込みという話し手の認識を表すものがある。また、否定疑問形式は独立した文末形式としても用いられる。命題否定疑問文の意味は否定形式・疑問形式それぞれが持つ〈否定〉〈疑問〉という意味の足し算によって求められるが、事態成立に対する話し

手の感情や見込みはそのようには求められない。以下、それぞれの用法について個別に取り上げる。

3.2. 話し手の感情を表す用法

否定疑問文の中には、肯定命題の成立を期待する・不安に思うといった話し手の気持ちを表す用法がある。

(51) ［輸血できる人を探している］お前、{A型ヤナイカ／A型チャウカ}？

(52) ［職場にはもう慣れたか？］仕事、{大変ヤナイカ／大変チャウカ／大変ナコトナイカ}？

(53) ［味見をしてもらって］どう、{辛くナイカ／辛いコトナイカ}？

(54) この車、なんとか今日中に{直らンカ／直らヘンカ}？ 明日どうしても必要なんだ。

話し手の感情を表す用法は、否定命題の真偽ではなく肯定命題の真偽を問題にしている点が特徴である。例えば（51）の場合、話し手が問題にしているのは聞き手が「A型でない」ことの真偽ではなく、「A型である」ことの真偽である。よってこの文脈では肯定疑問文を用いることも可能である。

(55) 緊急で輸血が必要なんだけど、お前、A型か？

しかし、このような文脈で否定疑問文を用いると、肯定命題の真偽に対する問いかけだけでなく事態の成立に対する話し手の情意的な態度が示されることになる。すなわち、「聞き手がA型であるかどうかは不明だが、そうであることが望ましい」という話し手の感情が表されるのである。（54）でも同様に、否定形式を用いることで「車が今日中に直ってほしい」という話し手の希望が表されていると考えられる。逆に（52）（53）では、話し手が事態の成立を望ましくないものと捉えていることが否定形式によって示されている。

ただ、命題否定疑問文の場合と同じように、～チャウカや～コトナイカを用いると話し手がなんらかの根拠に基づいて事態成立の見込みがあると判断しているように感じられる。例えば（51）で～チャウカを用いると、ふだんの行動などから聞き手がA型であると推し量り、その判断の妥当性を聞き手に問うている場面などが容易に浮かんでくる。

(56) ［几帳面に整理整頓をしている様子を見て］お前、A型チャウカ？

また（53）で～チャウカを用いた場合も、味見をするなどして「料理が辛い」という判断が話し手の中にあるという状況での発話と解釈されやすい。

(57) A：味見してみてくれない？

B：［味見をして］うーん、ちょっと辛いコトナイカ？

これは、後述するように～チャウカや～コトナイカが文末形式として固有の用法を持っていることと関わりがあるものと思われる。

3.3.　話し手の認識を表す用法

話し手の見込みが肯定命題に傾いていることを表すというのも否定疑問文の用法の一つである。この場合、問いかける内容そのものが異なるため、肯定疑問文と置き換えることはできない。

(58)　近頃、みんな｛花粉症ヤナイカ／花粉症チャウカ｝？

cf. 近頃、みんな花粉症か？

(59)　面接に着ていくんだったら、こっちの色の方が｛無難ヤナイカ／無難チャウカ／無難ナコトナイカ｝？

cf. 面接に着ていくんだったら、こっちの色の方が無難か？

(60)　年度末で仕事が｛忙しくナイカ／忙しいコトナイカ｝？

cf. 年度末で仕事が忙しいか？

(61)　あの人、最近よく銭湯に｛行かンカ／行かヘンカ｝？

cf. あの人、最近よく銭湯に行くか？

このような否定疑問文では、なんらかの根拠によって、肯定命題に示される事態成立の見込みがあると話し手が判断したことが表されている。そして、話し手の判断の妥当性が聞き手に問いかけられているのである。肯定疑問文が事態成立の見込みの有無について中立的であるのとは対照的である。

一つ重要なことは、話し手に認識を表すこのような否定疑問文に限って、～コトナイカが名詞文や動詞文にも用いられることである。§2.3 で確認したように、～コトナイは形容詞述語の否定形式であり、名詞述語や動詞の否定表現として用いることはできないのだが、話し手の見込みが肯定命題に傾いていることを表す否定疑問文ではその制約がなくなり、どの品詞においても～コトナイカが用いられるようになる。

(62)　近頃、みんな花粉症ナコトナイカ？　　（＝例文（58））

cf. ＊近頃、みんな花粉症ナコトナイ（花粉症ではない）。

(63)　あの人、最近よく銭湯に行くコトナイカ？　　（＝例文（61））

cf. ＊あの人、最近よく銭湯に行くコトナイ（行かない）。

前接する品詞を選ばないということは、～コトナイカという形式が否定形式という出自を離れ、独立した文末形式となっていることを示唆している。すなわち、大阪方言においては～コトナイが単に形容詞の否定形式であるだけでなく、疑問形式と融合することによって独立した文末形式として用いられているのである。これについては次節で取り上げる。

3.4.　否定疑問形式による文末形式

前節でみた～コトナイカのように、否定形式の中には疑問形式と融合する形で独立した文末形式となっているものがある。大阪方言では、～コトナイカのほか、～チャウカ（厳密には「～ンチャウカ」）・～ヤナイカにそのような性格が認められる。これらは認識的モ

ダリティとしてそれぞれ固有の用法を担っており、文末形式として用いられる場合には前接する品詞を選ばない。

《～コトナイカ》

(64) 今日も吹雪ナコトナイカ（吹雪ではないか）？

cf. ＊今日も吹雪ナコトナイ（吹雪ではない）。

(65) おばあちゃんは、思ったより元気ナコトナイカ（元気ではないか）？ ほっとしたよ。

(66) 今日は、昨日より寒いコトナイカ（寒くないか）？

(67) もうそろそろ、お客さんが来るコトナイカ（来ないか）？

cf. ＊お客さんが来るコトナイ（来ない）。

《～ンチャウカ》

(68) この分だと、明日は吹雪ナンチャウカ（吹雪なのではないか）？

(69) おばあちゃんのことだから、まだまだ元気ナンチャウカ（元気なのではないか？）

(70) 今日は、昨日より寒いンチャウカ（寒いのではないか）？

cf. ＊今日は、昨日より寒いチャウ。

(71) もうそろそろお客さんが来るンチャウカ（来るのではないか）？

cf. ＊お客さんが来るチャウ。

《～ヤナイカ》

(72) ほら見ろ、やっぱり今日も吹雪ヤナイカ（吹雪ではないか）。

(73) おばあちゃんは、まだまだ元気ヤナイカ（元気ではないか）。長生きしてよ。

(74) 天気予報は外れたな。昨日より寒いヤナイカ（寒いではないか）。

cf. ＊昨日より寒いヤナイ。

(75) 早くしないと、お客さんが来るヤナイカ（来るではないか）。

cf. ＊お客さんが来るヤナイ。

文末形式としての～ンチャウカはもともとが名詞述語の否定形式なのでノ（ン）を介すれば当然どの品詞にも後続できるが、同じく名詞述語の否定形式を構成要素にもつ～ヤナイカはノ（ン）を介することなくすべての品詞を受けることができる。

またこれらの形式は、過去の形（タ形）を持たず、それ以上分割することができないひとまとまりの形式である。

(76) 昔は紅白饅頭｛もらったコトナイカ／＊もらうコトナカッタカ｝？

(77) 昔は紅白饅頭｛もらったンチャウカ／＃もらうンチャウカッタカ｝？

(78) 昔は紅白饅頭｛もらったヤナイカ／＊もらうヤナカッタカ｝。

～ンチャウカには形態としてはタ形があるが、それは時制の上で基本形と対立する形式ではなく〈想起〉という別の用法を担う形式である。文末形式としての～コトナイカ・～ヤ

ナイカはそのような用法を持っていない。

(79)　そういえば、卒業式で紅白饅頭｛＊もらうコトナカッタカ／もらうンチャウカッタカ／＊もらうヤナカッタカ｝？

（そういえば、卒業式で紅白饅頭をもらうのではなかったか？）

～ンチャウカは標準語の「のではないか」、～ヤナイカは「ではないか」にそれぞれ対応することが知られているが、～コトナイカに関する記述はほとんどなく、その用法は明らかでない。次節では、否定疑問文と～コトナイカの異同に留意しつつ、～コトナイカの用法を記述する。

4.　～コトナイカの用法

すでに述べたように、文末形式としての～コトナイカは、話し手の認識を表す否定疑問文との置き換えが可能な形式であり、命題否定疑問文や、話し手の感情を表す否定疑問文とは置き換えられない。

(80)　［空港で、今日出発の便はすべて満席と聞いて］

a. たぶん、キャンセル待ちをすればなんとか｛なるコトナイカ／ならヘンカ｝？

［話し手の認識］

b. 困ったなあ。本当にどうにも｛＃なるコトナイカ／ならヘンカ｝？

［命題否定疑問文］

c. 急ぎなんだが、なんとか｛＃なるコトナイカ／ならヘンカ｝？

［話し手の感情］

このことから、～コトナイカは話し手の見込みが命題成立へと傾いていることを明示的に表す認識的モダリティ形式の一つとみることができる。ここでは、否定疑問文の「話し手の認識を表す用法」を手がかりに～コトナイカの用法を記述する。以下、否定疑問文と～コトナイカが置き換えられる場合を§4.1で、置き換えられない場合を§4.2で取り上げる。

4.1.　～コトナイカの基本的な用法

§3.3で簡単に触れたが、話し手の認識を表す否定疑問文とは話し手が命題成立についての見込みを持ち、その妥当性を聞き手に問うタイプの否定疑問文である。その特徴は次のように説明できる。

(a)　話し手にとって命題の真偽は不明である

(b)　何らかの根拠により、命題成立の見込みがあると話し手は判断している

(c)　話し手にとって聞き手は、より多くの情報を持っている存在である

(d)　話し手の判断の妥当性を聞き手に問うことで、不明であった命題の真偽を明らかにしようとする

このタイプの否定疑問文は、ほとんどの場合において～コトナイカと置き換えることが

できる。

(81) 広島の人ってよく「じゃけえ」って｛言わへンカ／言うコトナイカ｝？

(82) 彼は、日本酒は飲まないけど焼酎は｛飲まへンカ／飲むコトナイカ｝？

(83) 最近、駅で上田さんによく｛会わへンカ／会うコトナイカ｝？

(81)～(83)では、話し手の観察や知識を根拠として、命題成立の見込みがあると話し手が判断し、その判断の妥当性を聞き手に尋ねている。ここでは一般的な事態や複数回行われている事態が問題になっているが、次の例のように眼前で起こっている事態を問題にする場合もある。

(84) ねえ、雨が｛降ってへンカ／降ってるコトナイカ｝？

(85) ちょっと、あの人｛泣いてへンカ／泣いてるコトナイカ｝？

また、聞き手についてのことがらを問題にして、話し手の判断の妥当性を尋ねる例もある。

(86) もしかして、足｛痛くナイカ／痛いコトナイカ｝？

(87) お前、｛疲れてへンカ／疲れてるコトナイカ｝？

(88) 石橋に来ると、学生時代を｛思い出さへンカ／思い出すコトナイカ｝？

(89) 山のてっぺんにアンテナみたいなものが｛見えへンカ／見えるコトナイカ｝？

(86)(87)は、話し手の観察によって聞き手の状態を推測し、その判断の妥当性を聞き手に尋ねている例で、「足が痛い」「疲れている」のは聞き手だけである。それに対して(88)(89)は、話し手自身もそのような状態にあることを根拠に聞き手もまたそうであろうと判断し、その判断の妥当性を尋ねている例で、聞き手だけでなく話し手自身も「学生時代を思い出す」「アンテナみたいなものが見える」という状態にある。話し手自身の状態が含まれるか否かという点で両者には違いがあるが、どちらの場合においても～コトナイカを用いることができる。

ところが、話し手の認識を表す否定疑問文の中でも、～コトナイカに置き換えられないものがある。これについて次節で検討する。

4.2. 「～と思う」の否定疑問形式と～コトナイカ

話し手の認識を表す否定疑問文は、ほとんどの場合～コトナイカに置き換えることができるが、いくつか例外が認められる。ここでは、その例外のうち、「思う」を述語にもつ否定疑問文について検討する。

「思う」を述語にもつ否定疑問文の場合、～コトナイカに置き換えられないものがある。

(90) 梅の花っていい匂いがすると｛思わへンカ／＃思うコトナイカ｝？

(91) 焼きそばの上に天カスがのってるのはおかしいと｛思ワへンカ／＃思うコトナイカ｝？

これらの否定疑問文はいずれも「～と思わへンカ」という形を取っているが、この場合、「～と思うコトナイカ」に置き換えることができない。(90)(91)は補文中の述語の否定形式

によっても同じことを表すことができるが、この場合には～コトナイカを用いることが可能である。

(92)　梅の花っていい匂いが｛セーヘンカ／するコトナイカ｝？

(93)　焼きそばの上に天カスがのってるのは｛おかしくナイカ／おかしいコトナイカ｝？

しかし、「～と思わヘンカ」という文の中には「～と思うコトナイカ」に置き換えられるものも存在する。この場合は逆に、「補文中の述語＋コトナイカ」に置き換えることはできない。

(94)　a. 前輪が両方パンクしてたら、さすがに様子がおかしいと｛思わヘンカ／思うコトナイカ｝？

b. 前輪が両方パンクしてたら、さすがに様子が｛＃おかしくナイカ／＃おかしいコトナイカ｝？

両者の違いは、話し手が問題にしている事態の内容の相違である。(90) や (91) では、話し手は「梅の花はいい匂いがする」「天カスがのっているのはおかしい」という補文中の内容の真偽を問題にしているが、(94) では「様子がおかしいと思う」という主節末までを含めた内容の真偽を問題にしている。後者の場合には、「思うコトナイカ」を用いることができ、前者ではできないのである。

(90) や (91) において「思う」の否定疑問形式と～コトナイカが置き換えられないという事実は、両者が文の中で同じような役割を果たしていることを示唆している。すなわち、「～トオモワヘンカ」という形式そのものが、話し手の認識の妥当性を聞き手に問う固定化された表現となっていることを示していると考えられるのである。(90) (91) が (92) (93) のように補文中の述語の否定疑問形式を用いても表せるという点からも、この考えが支持されよう。(90) や (91) においては、①「思う」の否定疑問形式、②補文中の述語による否定疑問形式、③～コトナイカ、という三つの表現形式がバリエーション関係にあるのである。思考動詞「思う」が認識のモダリティに似た用いられ方をすることが日本語記述文法研究会編 (2003:183-188) で指摘されているが、その否定疑問形式にも認識的モダリティとしての用法があることになる。

ほかにも、～コトナイカに置き換えられない否定疑問文の例がいくつか存在する。

(95)　あそこのご主人、雪で足を滑らせて頭を打って救急車で運ばれたんだって。｛怖くナイカ／＃怖いコトナイカ｝？

(96)　セールスの電話がかかってきて、「あなたの年収はいくらぐらいですか？」とか聞くんだ。いきなりそんなこと聞くなんて、｛失礼ヤナイカ／＃失礼ナコトナイカ｝？

このような例では、否定疑問文を～コトナイカに置き換えると不自然に感じられる。どちらも話し手自身の意見を述べ、聞き手の考えを尋ねている例といえるが、この場合になぜ

～コトナイカが用いられないのか、現段階では答えを持ち合わせてない。ここでは、どちらの場合も「～と思う」の否定疑問形式には置き換えが可能であるという点を指摘するにとどめる。

(97) あそこのご主人、雪で足を滑らせて頭を打って救急車で運ばれたんだって。怖いと思わヘンカ？

(98) セールスの電話がかかってきて、「あなたの年収はいくらぐらいですか？」とか聞くんだ。いきなりそんなこと聞くなんて、失礼だと思わヘンカ？

類義的な関係にあると思われる「～と思う」の否定疑問形式、～コトナイカ、否定疑問文がどのような関係にあるのか大変興味深いが、これについては今後の課題としたい。

5. まとめと今後の課題

本稿では、大阪方言における述語の否定形式とそれを用いた否定疑問文を取り上げ、～コトナイという分析的な否定形式を中心に記述した。そして、～コトナイは形容詞否定形式の一つだが、疑問形式と融合した～コトナイカは認識的モダリティとしての固有の用法を持つことが明らかとなった。

～コトナイカは、話し手にとって真偽が不明なことがらについての話し手の見込みを聞き手に伝え、話し手の判断の妥当性を聞き手に問うモダリティ形式であり、基本的に、話し手の認識を表す否定疑問文と置き換えることができる。否定疑問文はさまざまな用法を担っているが、～コトナイカはその中の一つの用法に特化したモダリティ形式であるということができる。また本稿では、「思う」の否定疑問形式にも～コトナイカに類似した用法があることを指摘したが、各形式の用法上の異同について詳しく触れることはできなかった。

ところで、話し手の認識を表す否定疑問文の中には～コトナイカだけでなく～ンチャウカでも置き換えることが可能なものがある。

(99) ［望遠鏡をのぞいている相手に］今日は雲がないから土星がよく｛見えヘンカ／見えるコトナイカ／見えるンチャウカ｝？

しかし、否定疑問文・～コトナイカ・～チャウカがつねに交替可能というわけではなく、(100) のように～ンチャウカが不適切になるものや、逆に (101) のように～ンチャウカでしか表すことのできないものもある。

(100) なんか変な匂い｛セーヘンカ／するコトナイカ／＃するンチャウカ｝？

(101) そろそろ春一番が｛＃吹かヘンカ／＃吹くコトナイカ／吹くンチャウカ｝？

本稿では、このような問題にまで立ち入ることができなかった。固定化された表現としての「～と思う」の否定疑問形式とあわせて、話し手の認識を表す否定疑問文と～コトナイカ・～ンチャウカの異同を明らかにすることが今後の課題である。

【参考文献】

安達太郎（1999）『日本語疑問文における判断の諸相』くろしお出版

————（2002）「質問と疑い」宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃『モダリティ』新日本語文法選書 4　くろしお出版

鏑木昌博（1995）「大阪府大阪市都心部方言の否定の表現」方言研究ゼミナール幹事会編『方言資料叢刊』5　方言研究ゼミナール

郡史郎（1997）「大阪方言の特色」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫・郡史郎編『日本のことばシリーズ 27　大阪府のことば』明治書院

高木千恵（2000）「大阪方言におけるテ形について―形容詞・名詞述語・動詞否定形式のテ形（相当）形式―」『阪大社会言語学研究ノート』2

————（2004）「若年層関西方言の否定辞にみる言語変化のタイプ」『日本語科学』16　国立国語研究所

日本語記述文法研究会編（2003）『現代日本語文法 4　モダリティ』くろしお出版

山本俊治（1982）「大阪府の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学 7 近畿地方の方言』国書刊行会

たかぎ　ちえ（大阪大学大学院生）

takagic@myrealbox.com